

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292800057		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム 花水神 月の海		
所在地	千葉県鴨川市東江見395-2		
自己評価作成日	平成24年11月11日	評価結果市町村受理日	平成25年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成24年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の病態の悪化や全身状態の低下傾向がみられるようになったこの頃は、利用者様の心身の状態を日頃から詳細に把握しておくことが一層重要だということを全職員で意識を持つべく確認をしっかりと行っています。医療との連携の大切さを再確認するとともに定期的に訪問して頂いている看護師との関わりのおかげで、利用者様との交流があったり、日頃の健康チェック、職員への指示やアドバイスにより、安心や信頼感が急変時のスムーズな対応へと繋がってきています。
母体が病院であることを強みとして、より密な情報交換、共有をしながら医療との充実した連携の仕組みが確立するために個々の職員の意識を高める方向に向かっています。
当所の大切なモットーとして、開設時以来「和と輪」を以て事を成す。職員ひとりひとりの個性を認め合い、モラルのある職場環境のなかで、良い仕事をしよう、という気持ちを共有し、良い待遇へと繋げる努力は一進一退しつつも、改善しながら継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 小規模多機能施設と併設で、鴨川市の南部、江見の海や漁港が見渡せる景観に非常に恵まれたホームです。
2. 事業所独自の理念に加え、「たった一言が人の心を傷つける。たった一言が人の心を暖める。」をモットーに、利用者の心に寄り添い、安心感を与えるように、全職員が連携して活動しています。また、問題を先送りせず迅速に対応しており、心のこもった支援をしている様子が感じられます。
3. 運営母体は近くの病院なので、医療について安心感があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との触れ合いを大切にして入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思えるサービスに専念することを理念として共有している。	地域密着型のサービスの意義をふまえた理念をホーム内3か所に掲げています。管理者や職員は、ケア会議などで共有し、日頃のサービスの中で理念の実践を心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の職員が数名いることでその繋がりから行事の際、踊りや調理のお手伝いをして下さるなど一緒に楽しむ時間を共有している。	併設の小規模多機能型施設と共同で行う七夕祭り、納涼祭、クリスマスには、地区の老人会やボランティアの人達も参加し踊りや歌そして調理の手伝い(おはぎ作り等)など利用者も一緒に楽しんでいます。散歩の途中に漁師さんとの交流もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個別の外出支援の際、近隣を歩いていると挨拶や会話をして顔見知りになっていて地域での避難訓練の時に手伝いをして下さった地域の方と利用者との交流が出来る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では運営報告を行い利用者の現況報告や今、努力している事、検討課題を提議し出席者からのアドバイス等を受けた内容をケア会議にて報告し確認している。	市、地域包括支援センター、江見地区の老人会代表、区長、社会福祉協議会、民生委員などの外部メンバーを加え、2か月に1回定期的開催し、災害時の対応等貴重なアドバイスを受け、ホーム運営に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の包括センターの方が些細なことでも対応して下さったり、運営推進会議に出席して下さっている職員さんからもアドバイスを頂く等で心強く思っている。	市の担当者及び地域包括支援センターとは、常に連絡を取り合い相談にのってもらっています。研修会等にも積極的に参加しています。運営推進会議にも毎回参加があり、密接な協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という意識を継続して全員で繰り返し共有しているが、時として接遇の場面で言葉の拘束がみられる時があり、その際は職員同士でカバーしたり、対応の交代をする等している。	「身体拘束はしない」という意識を全員で共有し、実践しています。マニュアルを整備し、社内外で随時研修を受けています。日中玄関は施錠せず、チャイムの音で人の出入りを把握しており、玄関の方に向かう利用者がいれば職員が常にフォローするようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員個人のメンタルチェックを行い、自己コントロールがうまく出来ているか、確認を行い、問題ある場合は面談を行う様にしている。ストレスにより虐待という事故を起こさないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の研修資料を回覧して制度を理解し必要性について話し合うことはしても活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や同意書には必ず目を通して頂き、説明後納得の上、署名、印を頂き質問等随時受ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの意見や要望は内容により朝夕の申し送りの際やケア会議の議案として検討し緊急性があるものは早急に、場合によっては全体会議にて検討後発信している。	職員は、ケアプランの作成時や家族の来訪時に事務室で意見交換する他、こまめな電話対応や家族との連絡ノートを活用し、素直な意見要望を聴いてサービスの向上に役立てています。また毎月利用者の様子を担当職員が手紙で送付しており、家族から喜ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見、要望、提案があれば、いつでも言える職場環境作りに努めている。	管理者は、職員とのコミュニケーションを大事にしており、月1回のケア会議や朝夕の申し送りなどを利用して、自由に意見交換が出やすい雰囲気を作り運営に反映させています。例えば食事時の机の配置換えや、利用者が使い勝手が良いように衣類収納の仕方を改善した等です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の特性を把握し、業務の成果を認め、働く意欲や目標に向かう気持ちを大切にすることを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する内容や、必要としている研修に参加出来る機会を確保するための努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体である病院の看護師による研修を他のグループホーム等の職員合同研修会を行い、スキルアップとともに交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的に寄り添い介護に努めて、介護者と利用者が本来の馴染みの関係のなかで、自分の気持ちの表出が自然体で出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族への報告時や面会時に話す機会をつくり、要望や心配に思っている事、又今後の事等を伺い、信頼や関係の構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の気持ちを理解して、どのようなことを望まれているかを把握した上で、確認しながら適切な対応をしていく様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設で「共に生活する・・・」という掲げている言葉に則した日々の生活を継続している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へのお便りに時々ではあるが利用者様を「協働作業で・・・支えましょう」という内容の文を添えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向に添い、ご家族の協力を得ながら、可能な限り交流が出来ることを支援している。	年2回ご主人の埋葬されているお寺に職員とともに行くこと楽しみにしている人、姉妹に会いたいとの思いを察して家族と連絡をとり、定期的に訪問するよう働きかけるなど個別に手厚い支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の特性や心身の状態を把握した上で日常生活での利用者同士の関わりを見守り良い関わりが出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご家族が来訪され、職員、利用者と一緒に過ごして会話をし、必要に応じて相談を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や仕草等のなかから、思いや心の動きを理解することに努めて小さなことでも受け止めるようにしている。	職員が日々感じたこと、観察や会話の中から得た情報を書きとめ、利用者がどのように暮らしたいかを把握するよう努めています。また利用者との関わりを拒否していた家族が、共に食事をするようになるなど、関係改善のため様々な努力をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長い生活歴を一度に把握することは困難な訳でご家族の面会時や食事、お茶をともにする時の会話のなかから少しずつ理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のひとつひとつが生きる力であり出来るといふ実感が希望へと繋がると解釈し、小さな変化や様子を把握する様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議では個別に課題や改善点等について話し合い早急にやること、時間をかけてやっても良いこと等に考えてプランに繋げている。	初回のプランは本人・家族・地域包括シエンセンター・病院の相談員・看護師など、かかわる人々からの情報を基に作成しています。センター方式による丁寧なアセスメント、定期的なモニタリングを行い、必要であればプランの見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は大切である事を全員で理解している。個別に毎日の記録は詳細に、と行っているが振り返ってみる際、解り辛い場合があるので、その都度に確認しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの心身の状況変化に応じてご家族や職員で話し合い、ともに考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援の際、近隣の散歩や買い物に出掛けると気軽に声掛けをして下さったり、避難訓練に参加した際、たくさんの方が手伝って下さり、地域の温かさや心強さを感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院であることや医療連携の繋がりのなかで、日頃の様子を理解して貰っている事で急変時の対応がスムーズになってきている。	職員の介助で定期的に通院受診をしており、通院できない人には訪問診療で対応しています。また週に1度の訪問看護、必要に応じて専門医への受診、訪問歯科などにより利用者の健康を管理しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師の訪問を継続していることで、利用者の状態を把握して貰っている。また随時、体調の変化を報告、相談出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時には病院担当医師との情報を交換して治療の継続、内服薬、通院等について相談やアドバイスを頂いたり、ご家族も交えて退院後の生活についても話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が低下傾向になったり悪化した場合は担当看護師や医師と相談後、当施設で出来ること、本人、ご家族の気持ちに添うことに努めている。まだこの際の地域の関係者との関わりは出来ていない。	利用者や家族には早い段階で重度化や終末期についての意向を聞き取り、事業所の方針を伝えるとともに充分話し合いをしています。終末期には家族や医師、看護師と連携をとり、落ち着いて対応できる体制ができています。遠方の家族には緊急性を理解してもらう為に早めの対応に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についての研修は内部研修として母体の看護師から合同研修会として受けていて周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低でも年2回の火災避難訓練を行っているが、今年は市主催に於ける地域の避難訓練に参加して社協、市職員、地域の方々、消防関係者等の支援を受け、利用者、職員が参加した。	毎年自主避難訓練の他、消防署と地元消防団の参加を得て夜間の消防訓練も実施しています。スプリンクラー、消火器等必要な防火設備は整っています。また緊急連絡網や対応表も掲示されています。万一の災害に備え最低限の備蓄も行っています。	首都圏直下型地震も心配されています。早急に災害時の避難場所、経路、職員の役割分担等を決めることが望まれます。また備蓄の充実に向け内容・数量共に更に見直していくことも欠かせません。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもった接遇を・・・と唱えながらも時として心ない言動で気分を損ねる場面があり、接遇に関しては課題としている。	職員間の何気ない会話でも利用者に聞こえないよう配慮しています。また浴室の扉を開けても中が見えないようパーテーションを置いたり、居室入り口の窓をくもりガラスにするなど羞恥心やプライバシーの保護に努めています	職員と利用者が家族のように自然に会話している様子が窺えますが、接遇について、専門職としての更なるスキルアップが望まれます
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意志の表出は言葉のみに限らず、顔の表情や体の動きにより受け止めることができる事を理解している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、その日により気分も変わり、当然希望も変わり、体調により、より一層変化していくなかで、個々の対応を大切にしようと努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、利用者大切にしている物やいつも身につけている物等を理解し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事メニューを工夫している。利用者の生活動作の低下や全身状態の低下にて出来ることが減り、現在調理や片づけは難しくなり、簡単な作業を職員とともにやっている。	利用者の機能の低下に伴い、できることが限られてきていますが、テーブルを拭いたり簡単な調理の下ごしらえなどを職員と共に行っています。献立は写真付きでファイリングしており、全体のバランスや利用者の喜ぶメニュー作りに役立てています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認や嚥下状態等は常時、把握しながら日々の変化の記録をしている。必要に応じて夜間の水分摂取の時間、量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に就寝前の口腔ケアは丁寧に職員が手伝い、または介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	退院されたがオムツ使用になられた利用者が日常の生活を少しずつ取戻し、継続した排泄介助によりリハビリになったり、布パンツ使用になっている。	入居時には尿意がなく、おむつを使用していた人が職員のトイレ誘導や声かけにより布パンツになった例があります。排泄チェック表をフルに活用し、排泄の自立のために様々な努力をしている様子が見えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を生活の柱と考えており、排便の確認は特に重きをおいている。時に訪問看護師に相談する場合もあり、食と関連して常に考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	排便の失禁があったり、食事や汗等で入浴が必要だと感じたら決まり事なく、暗黙の了解で入浴している。当日入浴しない利用者は足浴している。	週に2～3回のペースで入浴しており、他の日は足浴をしています。これにより足のむくみが取れ水虫が治った例もあり、家族からは大変喜ばれています。また(ゆず湯)や(しょうぶ湯)など季節を感じる工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休息の希望があったり、必要がある利用者は休憩時間をみながら休んで頂いている。夜間にいつも馴染みの物が必要な利用者はその気持ちに添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診後の処方箋の確認をしており内服薬の変更の際は全員が周知することが出来る様、記録し、その後サインを行う。薬の変更後の様子観察は特に配慮し報告の義務としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしのなかで、小さなことでも楽しみや喜びが感じられる様に心掛けていて、気分転換はとても大切だと感じ、視界、人との関わりに工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	限られた利用者になるが、本人の希望であったり気分転換に散歩に出掛けたり、買い物に出掛けている。またご家族と一緒に食事に出掛ける為の支援をしている。	商店で自分のお金で買い物をするなど、利用者の嬉しそうな表情が見られる機会を作っています。天気の良い日にはできるだけ散歩に出かけ、外気に触れるよう支援しています。桜や紅葉の季節にはお弁当を作ってドライブに出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお預かり金として預かっており、利用者にもその事を伝えている。現在はお金を持ちたい、という希望は直接的にも間接的にもないが、希望あればご家族と相談の上応じる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい、という希望に随時応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太陽光に恵まれたリビングは明るく心地よいと思うが、リビングと隣り合わせに浴室があり、時としてプライバシーが守れない場面があるが、職員は何とか工夫している。	ほとんどの利用者が過ごす、居間兼食堂は大きなガラス張りで海や漁港に面しており、漁港からの船の出入りが手に取るように見られ、居ながらにして時々季節感が感じられます。広く明るい居心地の良い空間を利用して、リハビリ体操や馴染みの歌謡曲を唄ったりなごやかに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆んどの利用者はリビングで過ごしているが、自室に戻りたい、休みたい、という希望があれば見守りながら支援している。気の合った同士で同テーブルになることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のご家族の写真や若い時の写真を飾ったりしているが、自室でゆったりと過ごす空間にはまだなっていないので、居心地の良い部屋作りをご家族と考えて工夫したいと考えている。	個人を尊重して原則持ち込みは自由です。清潔な居室には、ベッド、ラジオ、古い化粧箱、電気毛布、箆笥、家族・お孫さんの写真等馴染みのある物を持ち込み、自宅に居るように快適に過ごしています。また新聞を読むのを楽しみにしている利用者もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、リビング、お風呂場、トイレ等解りやすい空間となっているが、車椅子での移動が難しい箇所もあり、出来るはずの所が困難になっている事を何とか工夫出来ないかと考えている。		